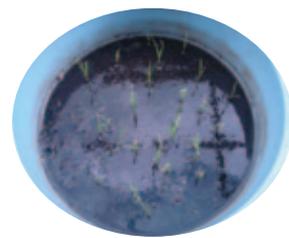


水を変えて育てる

稲いねを育てるための水をいろいろ変えてみよう



水田で育つ稲にとって、水は大切なものです。その水を、いろいろ変えて育ててみましょう。米を育てるためには、どのような水が適しているのでしょうか。

実験と観察の項目■例

- 水の量を変えてみる。
- 色水を使って育てたら、どうなるかを見る。
- 冷たい水と温かい水など、水温を変えて比較しながら育ててみる。
- 真水と塩水で、比較しながら育ててみる。
- 日本によくある軟水なんすいと、外国によくある硬水こうすいで、比較しながら育ててみる。
- いろいろな場所の水を使って、比較しながら育ててみる。

実験と観察の方法とポイント

実験

「冷たい水」と「温かい水」で稲を育てた場合、育ち方にどのような違いが出るのか、調べてみましょう。

方法

バケツ稲を2つに分け、水やりのときに必ず温度を測り「冷たい水」をやる方と「温かい水」をやる方を決めます。

観察

発芽の時期が同じになるか、育つ早さに違いが出るか、そのタイミングを表にしておきましょう。また、温度によって違いが出るかも調べてみましょう。

結果

「冷たい水」か「温かい水」なら、「温かい水」の方がよく育ちます。冷た過ぎても、温か過ぎても、稲の成長には良くありません。

ポイント

稲はもともと、東南アジアが原産と言われています。水温や気温、湿度などによっても育ち方が変わります。また、寒い地域でも育てられるように、品種改良をしています。水の適温は16度から25度とされています。

冷たい水、温かい水を5～10度ずつに分けて育てると、稲を育てる水の適温が分かります。

